

2022年6月26日

日本の海岸線を歩く会 歩行報告書

報告者 稲葉勝利

1. 概要

歩行名称にはブロック名（会則に記載）と概略歩行区間を記載する

歩行名称	東北西ブロック 5
歩行区間詳細	スタート地点:仁賀保駅
	ゴール地点:男鹿駅
実施期間	2022年5月30日(月)~6月4日(土)
全歩行距離	93.2km

2. メンバー表

No.	役割・分担	氏名	年齢	歩行日数	備考
1	リーダー	稲葉 勝利	77	5	12期
2					

3. 歩行の概要

	月日	出発地 ~ 到着地	歩行距離	歩行参加者	備考
1	5/31	仁賀保駅~由利新庄	13.5km	稲葉	
2	6/01	由利新庄~道川駅	20.1km	同上	
3	6/02	道川駅~秋田市街	24.5km	同上	
4	6/03	秋田市街~船越	24.5km	同上	
5	6/04	船越~男鹿駅	10.6km	同上	

4. 参加費

参加者延べ日数 1×5

参加費合計 500円

5. 費用概算

交通費(往:東京→秋田夜行バス、復:大人の休日バス)使用	22,675円	
宿泊費(一部夕食、朝食、酒代含む)	21,505円	
飲食費 等	5,939円	合計 50,119円

6. 歩行の詳細

5月30日(月) 晴

22:50 東京(夜行バス) →

5月31日(火) 雨

→9:10 秋田駅(電車) 10:35→11:18 仁賀保駅 11:35...12:15 潮風通り橋げた下...12:50 羽越本線陸橋下(昼食) 13:20...14:21 西目高校前バス停...15:10 ホテルルートイン由利本庄

今回、日程の効率化、交通費の軽減の観点から、往きは夜行バスを利用した。久しぶりの夜行バスであったが、三列でよくリクライニングが効いた座席は快適で、十分に睡眠ができた。和田さん達が歩行した当時は象潟行の夜行バスがあったが現在はなく、秋田経由であったため、乗り継ぎに時間が掛かり、歩行開始は昼近くになる。

夜半から降り始めた雨が、仁賀保駅では本降りになり、雨中、県道 166 号線を行く。雨宿りができる店や神社もなく、道路が交差する橋げたの下や、バス停を休憩場所として、歩行する。田植えを終えた水田の向こうの山の上に風力発電が連なる。

12:30 国道 7 号線に合流すると間もなく、由利本庄市に入る。



仁賀保駅から歩行を開始



風力発電が連なる県道 166 号線



昼食は橋げたの下

計画では途中 7 号線から離れて西目漁港を通る海岸線の道を行く予定であったが、風雨も強く、唯一の休憩所となるバス停もないことから、バス停のある 7 号線をそのまま行く。西目駅付近には鬼瓦を供えた、立派な和風の建物が多い。宿泊予定地にはコンビニ以外に食料品店は見当たらないので、途中の唐揚げ屋やドラッグストア薬王堂でアルコール以外の夕食材料を仕入れる。

「道の駅にしめ」の手前に大きな二基の石碑が建立されていた。「白砂 青松の里 天地豊穰」の碑と「佐々木翁顕彰碑」である。戦後の引揚者、沿岸漁業者の生活の安定を図るため、砂丘地を田園地帯に変える開田事業を顕彰したものだという。道の両側には田園風景が広がる。



鬼瓦を持った建物



雨中ではバス停は最高の休憩所



田園地帯に聳える二基の石碑

夏になると一面のひまわり畑となる場所もまだ時期が早くその姿が見えないのは寂しい。「道の駅にしめ」は「はまなすの里」ともいう。今を盛りの赤や白のハマナスの花が道路脇を彩る。この道の駅には寄らず、先を急ぐ。

7 号線は子吉川にかかる本庄大橋を渡るため右方向に曲がっていくがその手前から凡そ 1.3kmの間はニセアカシアの花街道の名がふさわしいほど、道の両側に白い花が鈴なりに咲いている。

ニセアカシアの花が終わると間もなく、今日宿泊予定の「ホテルルートイン由利本庄」の高い建物が目に入ってきた。町の中心から離れており、買い物には若干不便だが、コースの途中にあったのは助かった。



道の駅にしめ：はまなすの里



ニセアカシア街道



ホテルより、本庄港方向を見る

6月1日（水）晴時々曇り

ホテル7：30・・・8：15 上三川バス停先・・・9：10 夕陽の見える日露友好公園・・・10：00 芦川バス停・・・
11：15 松ヶ崎漁港入口 11：35・・・12：20 岩城中学校入口・・・12：50 道の駅岩城（昼食） 13：40・・・
14：10 道川駅 14：52→15：19 羽後本庄駅・・・15：22 本庄ステーションホテル本館

ホテルを出るとすぐ、子吉川に架かる本庄大橋を渡る。橋を渡ると凡そ 2.5kmの区間は市街地を行く。天気予報は朝から晴であったが、歩き始めはどんよりとした曇り空であった。今日は自由に休憩所を選べるのはうれしい。羽越本線は衣川まで 14km間は海岸線から大きく迂回しているが、秋田方面には 8 本/日のバスが運行しているので、非常時には利用できる。上三川のバス停を過ぎたあたりから、「夕陽の見える日露友好公園」までは標高 20mくらいの高台を海岸線に沿って 7 号線を進む。



本庄大橋を渡る



三川道路公園付近の海岸線



7号線は海に沿ってやや高台を行く

「夕陽の見える日露友好公園」の手前には駐車場があり、ハマナス、ハマヒルガオ、ハマエンドウ、カワラナデシコ、ノカンゾウ等の色とりどりの花が競い合うように咲いている。公園には昭和 7 年ウラジオストックを出港したロシア人の漁民 4 人が難破し、この沖合で救助された（16 歳の一人は死亡、他は帰国する）事件の慰霊碑と火の見櫓が建っている。付近には人家がないので、火の見櫓は遭難発生時の連絡用？



深沢の駐車場に向かって



駐車場付近はお花畑



夕陽の見える日露友好公園

7 号線は再びほとんど人家が見当たらない高台を北上する。この付近は 2mを超えるイタドリが歩道を覆っている箇所も多く、小山が全てイタドリで覆われている光景も見られる。前回の歩行は庚申塔を探しながらの工程を楽しんだが、今回は時期が良かったためか、路傍に次々に各種の野草の花が現れ、それを観察する楽しみをもって歩行することができた。

しかしながら、「夕陽の見える日露友好公園」付近から桂根駅近くまでの凡そ 25 km に渡って広範囲に群落していた黄色の大輪の花はオオキンケンググの花で、特定外来植物に指定されており、繁殖力が強く除去するのが難しい。現在多く見られる在来の花は放置していたら減少消失してしまうのだろうか。

何かを探しながらの歩行は一步一步が期待感を持った歩行となるので、疲労感があまり気にならない。対象となるものは人それぞれで、目的は違うが、写真家の石川文洋氏は日本海側を北海道から縦断した著書「日本縦断 徒歩の旅」で各県ごと歩行 10 分間のポイ捨て量を調べていた。観光地を巡る旅と異なり、今回のような歩行そのものを目的としている場合、歩行をより充実したものにするため、歩行の過程を楽しむ目的を持つことは必要と思われる。

7 号線より離れて松ヶ崎町の町中を行く。診療所や郵便局もあるこの付近では大きな集落ではあるが、人影はほとんど見られず閑散としている。



イタドリで覆われる小山



オオケンケンギクの群落



松ヶ崎への分岐

衣川を超えると道は再び 7 号線に合流する。その先の松ヶ崎漁港入口にグーグルのストリートビューでは食堂が映っていたので、当初そこで昼食を予定していた。しかし写真で見る通り無残な焼け跡があるだけであった。幸い時間も早かったので、非常食で簡単な食事を摂り、昼食は道の駅岩城にする。

途中亀田藩 2 万石の歴史と文化を集積した観光スポット天鷲郷への分岐を右に見送り、道の駅岩城を目指す。道の駅岩城の海辺から橋を渡った海の中に珍しい形の人口の立派な道川漁港がある。釣りのスポットらしく橋の手前に多くの車が駐車している。

道の駅のレストランで地魚を期待して、定食を注文したが、刺身は小さな鯛の切り身が一切れと鮮度が落ちたようなマグロの切り身 3 片で期待外れ。ここにはオートキャンプ場や 450 円で入浴できる岩城温泉 港の湯もあるが一人旅では宿泊としては対象外。この近辺には他に宿泊所もないことから、宿泊所は羽後本庄駅まで、電車で戻り、駅前のホテルを予約していた。本日の歩行は道の駅から徒歩 10 分の岩城みなと駅までを予定していたが、時間が早かったことより、次の道川駅までに歩行し、そこから、羽後本庄駅まで戻る。

昨日は見えなかった鳥海山が羽後本庄駅の二階からよく眺められた。



当初の昼食予定地



道川漁港



道の駅岩城

6 月 2 日 (木) 晴のち雨

羽後本庄駅 6 : 15 → 6 : 36 道川 6 : 40 … 7 : 15 新谷 7 号線合流点 … 8 : 05 下浜道路橋げた下 … 8 : 55 長浜 …

9 : 55 滝ノ原バス停 … 11 : 00 日吉神社 … 12 : 10 茨島四丁目バス停 (買い出し・昼食) 13 : 15 … 14 : 05 ホテルアルファ

秋田 15:15→16:30 高野二区バス停 (バス) 16:48→17:00 山王十字路バス停・ホテル

本日の天気予報は午后雨のため、早めにホテルにチェックインできるよう始発の電車で、昨日の歩行完了点の道川駅に向かう。本日も鳥海山が良く見える。

道川駅からは昨日の道を少し、戻ったところで線路を横断し、線路の東側の迂回路 (旧道) を行く。今回まだ庚申塔に出会わなかったため、この迂回路には3基の庚申塔があるとの情報があったため、このコースを選んだのだが、写真のようにはっきりとは庚申塔と分らない3基の石仏があっただけであった。この付近のごみ収集所には立派な小屋がありそこに置くようだが、鍵までかかっている。



羽後本荘駅からの鳥海山



道川の庚申塔 (?)



ごみ集積所

新谷で7号線に合流し、少し北上した所から、待望の今回の目的地と男鹿半島の毛無山、本山、寒風山が日本海に浮かぶ島のような姿を現す。遙か彼方に見えるが、明後日にはたどり着けるのだろうか。人間の足の素晴らしさを実感する。

左手下方には砂浜が続く。雪川橋を渡れば秋田市に入る。10分後、7号線と別れ、羽越本線に並行して走るバス道に行く。8:45分長浜古戦場跡寄らずに通過。この道も昨日同様、野花を撮影しながら進む。

桂根駅手前で一時7号線と合流するが、直ぐ分かれて、羽州浜街道と呼ばれる集落の中を通るバス道に行く。この集落にははっきり庚申塔と分る石仏が2か所8基、草むらの中に見られた。いずれも文字塔である。



遠く男鹿半島を望む



長浜古戦場跡



草むらの中の庚申塔

この街道を参勤交代に利用した藩はなかったようだが、商人や出羽三山参詣者等が多く利用したという。集落には歴史的遺産が多く残されており、庚申塔以外にも地藏堂、滝之下御本陣跡、があり、従軍記念碑には西南の役に参加した兵士五名の名前まで記されている。先に長浜古戦場跡を通過したがこの古戦場は秋田戊辰戦争時、秋田藩が新政府軍側に寝返り、最後の砦として激戦を繰り広げたところという。このような背景から、遠く熊本まで、参戦したものが多かったのだろうか。

街道はこの後、右折し、7号線に合流する、7号線はその先で、雄物大橋で雄物川を渡り海岸線に近い道を北上する。本来この道を選ぶべきだが、今回この道路沿いの宿泊所の予約が取れなかったため、大きく右に迂回する羽州浜街道、現在の県道56号線 (秋田天王線) を取らざるを得なかった。

バス道は日吉坂通りを進み、日吉神社で56号線に合流するが手前に「新奥の細道」の道標が建っていた。秋田大橋にかかる頃より雨模様の天気になってきた。途中買い出しや、回転すし屋で昼食を摂ったりしたが、2時過ぎにはホテルにチェックインした。

明日の宿泊所までの歩行距離は約28kmあったので、計画では途中上田駅まで歩行し、上二田駅から船越駅までは電車

を利用することにしてた。それでも比較的な長い行程であったので、雨中ホテルに留まっても仕方ないので、明日の行程を一部消化することにした。雨脚は激しかったが、空身での歩行は楽だ。高野二区バス停まで凡そ4kmを歩行し、バスでホテルに戻る。

2002年頃、乱獲による漁獲量が激減し禁漁となっていたハタハタの漁獲量が回復したのが報じられていた。当時1月1日のみの1万円クーポンがJRで販売されており、これを利用して、ハタハタを食するためだけに秋田に来たことがあった。ハタハタを求めて、町中の食堂を探すが、どこも元旦は休みであった。あきらめて駅に戻ると駅の食堂が営業をしていて、やっとシヨツル鍋にありついた。そんな思い出もあったが、雨中食堂で一人夕食を摂る気にもならず、スーパーで食料とアルコールを調達し、部屋で夕食を摂る。



新奥の細道の道標



秋田大橋を渡る



雨中の秋田天王線を行く

6月3日（金）晴後曇り

ホテル6:25...山王二丁目バス停（バス）6:43→6:50 高野二区バス停...7:20 港湾通り7号線合流地点...8:55 男鹿街道追分幼稚園前バス停...9:50 五城目警察署上井出交番手前...10:50 道の駅天王（昼食）11:40...12:40 二田駅...13:45 船越水道船越側...14:15 民宿新地

昨日歩行した高野二区バス停まで、バスに乗り、そこから今日の歩行は始まった。

昨夜とは異なり青空が広がる秋田天王線を進むと間もなく国道7号線に合流する。合流点の先は秋田港になって居りそこに道の駅秋田がある。風力発電も間近に見られる。海岸線から離れた7号線を北上すると左折秋田マリーナの表示板が現れるが、そのまま北上を続ける。

奥羽本線追分駅手前から7号線と離れ男鹿街道に入る。男鹿街道は車の往来も少なく、歴史ある街道の趣を残している。

節目、節目の路傍に三十三番観音碑と「従是男鹿道」の道標が現れる。その傍らに庚申塔もひっそり残っている。三十三番観音碑は1805年太田玄碩が建立し、追分三叉路を起点として、集落の出入り口や三叉路などの道路の結末点に配置され、信仰の対象になっていた。

56号線と合流すると「道の駅てんのう」がある。



7号線との合流地点



三十三番観音堂碑と庚申塔



道の駅てんのうとスカイタワー

昨日前倒しで歩行したこともあり、道の駅には11時前に到着した。予定を変更し、ここをゆっくり見学した後昼食を摂り、本日の宿泊地まで電車を使わず歩行することにした。

天王グリーンランド「道の駅てんのう」はシンボルタワーの「天王スカイタワー」をはじめ、広大な敷地の中には

日帰り温泉や物産展のほか鞍掛沼の周辺に色々な広場が設けられている。時間があつたので日帰り温泉に入浴しようとしたら、故障のため温泉ではないことが分かりあきらめ、スカイタワーからの展望を楽しむ。



スカイタワーから秋田市内方面



北側から男鹿半島を望む



東側には八郎潟調整池が

ゆっくりと昼食を摂り、その後歩行を再開する。二田駅まで男鹿線の西側の 101 号線を進み、そこから踏切を横断し、男鹿線の東側の男鹿線と 104 号線間の道を行く。104 号線に合流後、八竜橋で船越水道を渡る。

いよいよ男鹿市に入った。橋の上流側はすぐ八郎潟調整池に続く。橋の船越側の川岸には国重要無形民俗文化財指定の「東湖八坂神社祭のトウニン（統人）行事」の碑と「菅江真澄の道」の雄潟の渡しの碑がある。

説明版によると月 7 日に船越と対岸の天王地区を神輿が巡り、天王からスサノオノミコトとして神格を身に着けた「牛乗り」が姿を現すと、船越からは真っ赤な衣装のヤマタノオロチが「くも舞」を演じ、「八また山岐の大蛇退治」の故事にちなんだ世界を繰り広げる。厳格な統人性を守り続け、故事と八郎潟周辺の農漁民に伝わる水神信仰が習合した祭礼である。

一方「菅江真澄の道」の碑は秋田県内に多数ある。菅江真澄は江戸中期の国学者、紀行家であり、民族学の先駆であった。三河国の出身であるが、旅好きで 1783 年三河を出て、信濃、越後、秋田、津軽、南部、蝦夷地を遊歴した、津軽藩内で 7 年間、採薬御用を務めた後、秋田領内に移り、秋田藩の地誌作成などを行い、当地で没している。

秋田県では今でも著名人であるという。

真澄はここを 1804 年訪れ「男鹿の秋風」の中で雄潟の渡しについて下記の記述があり、興味深い。

「昔、ここを千福川（雄物川）が流れていて、淳代（能代）に落ちていたという。ある時代に津波が押し寄せ、橋は壊され、千福川は土福川は土崎港に落ち、この湖に潮が入るようになって、今では四百間の間を船渡りしている」

この説によると現在秋田港に注いでいる雄物川は遠く能代まで流れていたことになる。

橋を渡れば民宿はすぐであるが、住宅街の中の民宿を見つけるのに手間取り、何人もの人に聞いてやっと民宿に着いた。しかし早すぎたためか民宿には誰もいなく、1 時間近く待たされた。病院に行ったが混んでいて時間が掛かったという。

今回の歩行では初めての民宿であった。船越地区には 2 軒しか宿泊所はなく、最初に計画した時にはこの民宿は満室で、元ラブホテルであったというホテルに宿泊する予定であった。日程を変更した際は、逆にこちらの民宿の方に空室があった。私以外は全て作業服を着た人たちであった。秋田市内の民宿も工事関係者で満室になり、ホテルしか空室はなかった。

民宿は食事付きで安いのが人気の秘密で、この民宿も格安であった分、料理等は極標準的な内容であった。



二田駅で男鹿線を横断



東湖八坂神社祭の統人行事の碑



菅江真純の道の道標

6月4日(土) 曇り一時雨

民宿7:00...7:50 男鹿街道診療所前バス停...8:45 道の駅おが3km手前...9:30 道の駅おが...10:10 男鹿駅
民宿を出るとすぐ101号線に入る、道の前方には寒風山回転展望台が良く見える。

船越の信号手前で左折し男鹿街道を行く。この男鹿街道も道幅は狭くなるが、車も少なく石碑等が多く残されており、静かに観察しながら歩行できる。刻字された文字は見えないが、馬が彫像された珍しい石祠があった。

この道の途中から101号線に戻るが、その曲がり角近くにある脇本郷会館の庭にも「菅江真澄の道」の道標があり、東湖八坂神社の竹伐りの神事では神主がここ脇本村まで来て、矢にする細い竹5本を切って湖水に浸して持ってきたという。101号線の「なまはげの館」に寄る。「なまはげの館」とは別でこじんまりした社が建っただけであった。社の壁一面に色鮮やかな太鼓をもつ鬼の絵が描かれており、その館の中に藁で作った2体のなまはげが迎えてくれていた。生鼻崎トンネルを抜ければ、今回の最終地の男鹿駅はもう目の先だ。



馬が刻像された石碑



なまはげの館



生鼻崎トンネルを抜けた地点

船川港此詰信号で101号線と別れ、海岸線に沿って、「道の駅おが」に向かう。「道の駅おが」には地元で漁獲された新鮮な魚類が種類も多くかなり安い価格で販売されていた。次回の歩行は宿泊地の関係からここ男鹿駅をベースにすることを想定しているので、その際は大いに利用できそうだ。

計画では15:36 男鹿駅発を予定していたが、10:46 初の電車に乗車可能となった。そのため運賃が高い盛岡経由ではなく、今回歩行したコースを車窓で見ながら、新潟経由で、帰宅しようとしたが、羽越本線が事故であるという。途中代行バスが走っているというが時間が読めず、あきらめて盛岡経由で帰宅する。

今回、梅雨入り前の天候が安定している時期を選んだにも拘わらず、出発前の天気予報では晴れが望めるのは6月1日だけでその他は雨交じりの不安定なものであった。結果は若干回復したものの、絶えず雨が気になった歩行となった、そのため早めに宿泊所に着くよう計画を前倒して実行した。また、雨宿りできそうなところを事前に調べていたのが役立った。歩行中は単調な道が多いにもかかわらず、町中以外は路傍の野花がそれを救ってくれた。



船川港此詰信号付近



道の駅おが



男鹿駅到着